

## 子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス®）を接種しましょう！

愛媛生協病院

### 子宮頸がん＝マザーキラー

日本では、1年間に約16,000人の女性が子宮頸がんを発症し、毎年3,000人の女性が亡くなっています。子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がないために治療が遅れることが多いのです。特に、これから結婚や出産を迎える20～30歳の若い女性に発症が急増していて、別名「マザーキラー」と呼ばれ、問題となっています。

### 発がん性ヒトパピローマウイルス

1983年に子宮頸がんの組織中にヒトパピローマウイルス（HPV）が発見され、HPVが子宮頸がんの原因ウイルスであることが判明しました。

HPVは人類と共存してきたウイルスで、多くの人が感染するウイルスであることが明らかになってきました。HPVは現在120種類以上が分類されていますが、その中の18種類が発がん性があります。発がん性HPVは性交渉によって感染するのですが、9割以上は一過性の感染で子宮頸部からウイルスは消失します。消失しても繰り返し感染します。一部の人に持続感染がおり、最終的に1,000人に1～2人が子宮頸がんを発症すると考えられています。

### HPV ワクチン

現在のHPV ワクチンは、発がん性ウイルスの中でも特に感染力が高いHPVの16型と18型に対応するワクチンです。日本人の子宮頸がんの約6～7割にこの2種類のウイルスが検出されています。HPV ワクチンは発がん性HPVの持続感染を防ぐことで、18～20年先の子宮頸がんの発症を防ぐという重要な意味があるのです。HPVは人の皮膚や粘膜面に広く分布するので、子宮頸がん発症予防の効果はワクチンと検診以外には期待できません。ワクチン効果の持続期間については20年近くと予想されていますが、検診の過程であり、追加接種が必要になる可能性もありますので、今後の情報に留意してください。

### 接種対象と接種回数

接種対象は19歳以上の女性です。性交渉での感染前に接種する方が有効なので、日本産婦人科学会等は、第一の接種推奨対象を11～14歳の女兒、第二の接種推奨対象を15～45歳の女性としています。既に性交渉で感染したことがある方に対しても、今後の感染予防の効果も期待できます。

接種は筋肉注射で3回の接種が必要です。（1回目後、1ヵ月後と5ヵ月後の合計3回）

